

1 研究の方向性

| | |
|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| AG 5 テーマ | ICT を活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発 |
| 今年の 強化 項目 | ① 学校と学校を日常的に繋ぐこと (学校の壁を超えた繋がり) ② まとめと汎用性 (他の学校でも活用可能, 継続し易さ) |
| AG 5 事務局 からの 研究 推進案 | (1) 4校合同研修 (毎月) (2) 合同研修会や合同研究授業 (各4回以上) (3) パターンランゲージによる手立て のまとめ (4) ICT 環境デザイン (5) 現地校出張交流 (8月末～ 9月) (6) ヒアリング (8月まで) (7) 代表的な実践事例の提示 |

本年度は日常的な遠隔交流を目指して、9月頃までに昨年度より多くの実践を重ねていく。9月以降も交流を継続しつつ、研究の成果を報告書にまとめていく。

2 今年度の主な取り組み

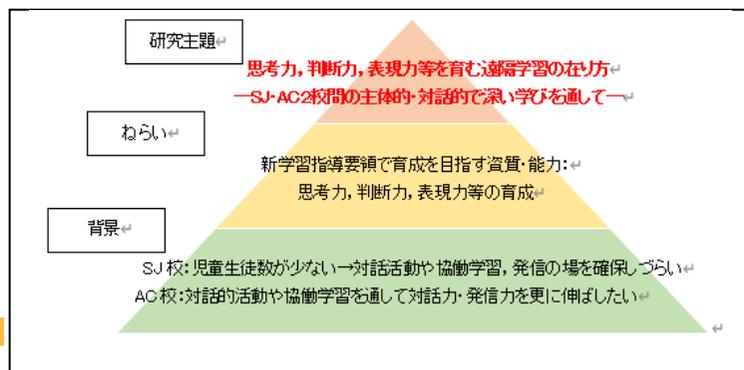
本年度はサンホセ校、アグアス校共に共通の研究主題とする。主体的・対話的で深い学びを行うことで子どもの思考力、判断力、表現力等を伸ばさせることを目標とする。

2021年度 アグアス・サンホセ 研究の進め方

3 研究の進め方

日常的に遠隔交流を行う計画を立てるのではなく、日常的に遠隔交流をするための方法を模索しながら、柔軟な対応を目指す。そのために、本年度は2校を4つのブロック（低学年部、中学年部、高学年部、中学部）に分けて、各ブロックで合同授業に向けての計画や連絡等を行う。

| | |
|-------------------|------------------------------------------------------|
| ① 各ブロックで 打ち合わせ | ・月に一回ブロック会をZoomで開き、各教科の進捗状況や、合同学習をする授業があるかなどを話し合う。 |
| ② 該当教員間で 計画 | ・zoomチャット等で打ち合わせを行い、具体的な合同学習の形態や合同授業の希望時期を決める。 |
| ③ 日程調整 ・日時決定 | ・合同授業を行う場合は、日程調整を行う。 ・間接交流の場合は必要なし。 |
| ④ 実践 | ・直接交流または間接交流による実践を行う。 |
| ⑤ 簡易報告書作成 | ・①必要性 ②手立て ③結果を簡単に記録する。 ・主体的・対話的で深い学びの成立条件をふりかえる。 |



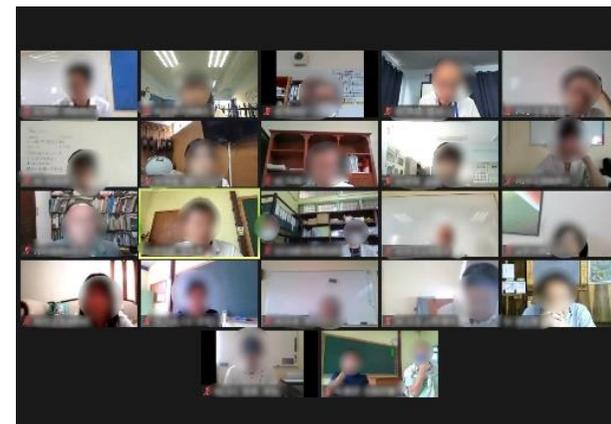
4 合同研修のふりかえり

【今後学んでみたいこと】

- ・ SJ校が教室で、AC校がZoomで交流授業をする際の教師の手立てを学びたい。
- ・ サンホセ校は対面授業が再開しているので、合同研修はもちろん、普段の取り組みについても気軽にご相談できるような関わり方をしていきたい。
- ・ 合同学習を継続させていくために、簡単な交流を続けていきたい。

【感想】

- ・ 色々な人との交流の中で、私自身だけでなく、子どもたちも成長できることを楽しみにしている。
- ・ 日々試行錯誤しているが、合同で研究を進めることで、新たな視点や手法を学びたい。
- ・ 直接型と間接型と2つのパターンを打ち出したことで、研究目標の1つである「日常化」に迫りやすくなった。間接型から気軽に取り組み、直接型につなげていければと考えている。



報告：アグアスカリエンテス日本人学校

辻良一 研究主任